

広報 =163号

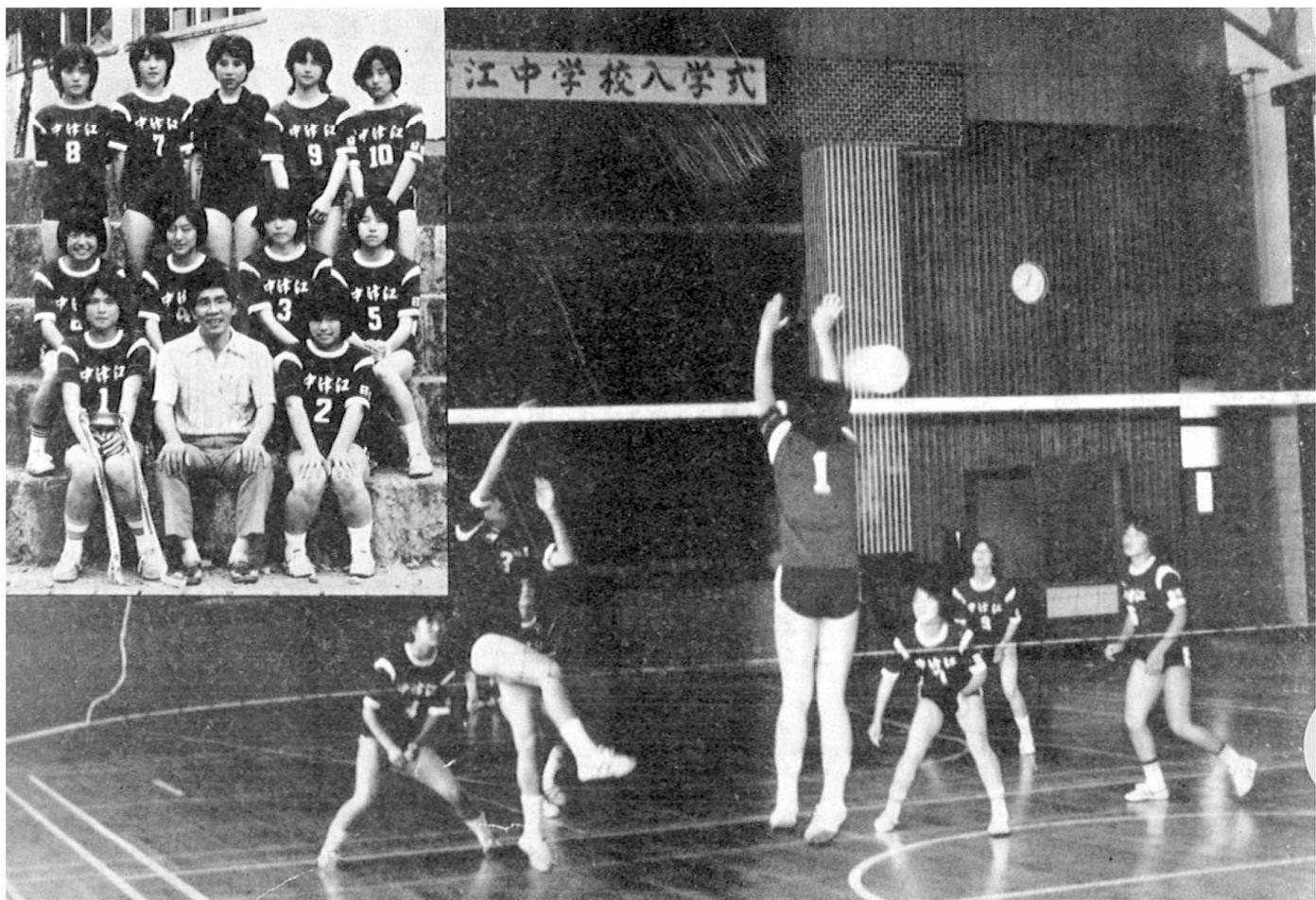
# なかつえ

人口と世帯

6月30日現在  
( )内は前月比  
人口 2,284(+ 2)  
男 1,103( 0 )  
女 1,181(+ 2)  
世帯数 601( 0 )

■ 発行所・編集発行人・中津江村・齊藤隆一

印刷・日田・朝日堂



中津江中学バレー部と野球部が県体に出場することがきまつた。バレーボールは東渓中学との決勝戦で、二対一で勝ち(この大会で鯛生中学も三位に入賞)、野球は大山と対戦し、一対〇で勝利をおさめました。この結果、両部は県体へ出場することがきまつたのです。毎日苦しみぬいた練習でつかんだもので、県体では、若い力をぶつけてもらいたいものです。

1977

7月号

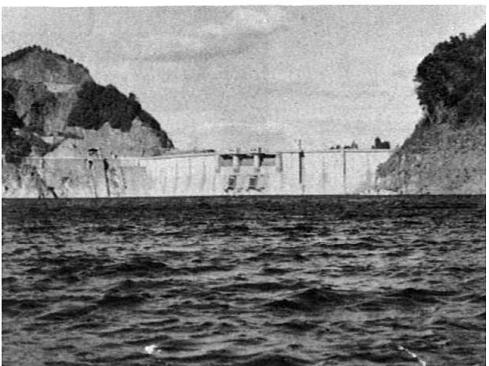
行  
事

<7月>

17日 郡体(陸上)  
23日 大暑  
24日 郡体(野球)  
31日 土用の丑

<8月>

5日 食中毒予防  
週間  
7日 立秋  
14日 国民皆泳の日  
15日 終戦記念日



▶下筌ダム

一九七〇年代後半は、水をめぐる重要な転機をむかえつつあります。

国際的にも水の問題は、エネルギー、食糧と同等か、それ以上の重要課題であるといわれています。国内的にも昭和六十年予測では、大都市の各地で飲料水の危機が予想され、水問題はもはや役所や水関係者だけには任せられない今までいわれ、官民あげて水問題への

取り組みとキャンペーンが始まっています。このようないわゆる水源、水辺地域住民、自治体、水問題研究者、水関係機関で働く者等よりなる団体である全国水問題協議会は、水問題についての情報報、連絡、調査研究活動の一環として、全国規模の討論会を日田市において開催することができました。

関係要綱は次の通りです  
から、団体で参加したいので希望者は至急、役場企画課まで申込みください。

◎日時：七月二十三日(土)

午後一時～午後六時・七月二十四日(日)午前九時～午後五時

筑後川は、治水の観点からもむちかけられているところです。

◎内容：二十三日～座長

# 全国水問題討論集会

7月  
23日  
24日

## 日田市で おこなわれます

取り組みとキャンペーンが開始されています。

かかる問題も拡大されつつあります。津江川より竜門ダムへの分水が計画されているこんにち、住民の方々の水問題への関心も高まっていますが、この時期に日田市で水問題討論集会が催されることは、水問題への知識を高めるうえに大変良い機会と思われますので、一般村民多数の参加を呼びかけています。

## 釣り大会

### 各地から70人の参加で：

したいものです。

各賞の入賞者は次の方々です。(敬称略)

○量目賞—①鎌光勝美(久留米)②坂井義伸(筑後)  
③中尾藤雄(日田)

六月十二日、中津江村観光協会主催、西日本新聞社後援で、午前六時から午後一時まで第六回津江川開き釣り大会がおこなわれました。

前日まで降り続いた雨で水力が増し、量的にはあまり期待できなかつたもの

の、この日は雨もあがり、

絶好の釣り日和、遠くは久

留米、筑後、荒尾などから

川釣りファン七十人でにぎわいました。午後一時から

釣った魚をもちより、各賞

を決定してきましたが、

村内の最高位は十一位の安岡佳伸さんで、次回から村

内の釣り名人の参加を期待

麻生毅(九重町長)△全国水問題協議会活動の経過と討論への提案(千葉大学石川練次郎)△九州各地の方面から水利用争奪の的となっています。したがってこれら治水、利水の計画と

水利権や農業、漁業、さら

に自治体との関連は最近、とみに複雑になつております。

後川の水害問題と今後の展望(東京大学高橋裕)△筑後川流域の社会経済問題(関

◎申込方法：七月十八日〆切、中津江村役場企画課へ

二千円(個人負担)

◎参加料：団体参加料一人

下筌・松原ダム見学

西大学 桜田哲)△下筌・松原ダムと室原知幸氏の役割(熊本市森純利)△討論会を正午に終り、午後は

報告会日程

- ①日時…7月22日(金)  
午後1時～午後4時
  - ②場所…役場大会議室
  - ③主催…中津江村
  - ④報告者…山村振興調査会(東京大学教授 高橋裕ほか数名)
  - ⑤参加対象…全村民を対象としています。

日本は戦後の社会的、経済的に混乱をむかえた時代から、国の高度経済成長策により高度な成長期に入り、そして、昭和四十年代後半石油を中心としたエネルギー危機に直面したこんにちと、過去において大きく変わっています。

とくに、中津江村においては、下筌ダム完成に伴う水没者の村外転出、昭和三十年ごろ操業を再開始した鯛生金山の昭和四十五年休山により従業員の流出など村の振興に大きく変化をもたらす原因はあつたにせよ、このような時代の推移とは

うらはらに、高度経済成長のあおりを受けて、若年労働力の都市集中化で、農林業を主産業とするへき地山村は、止めようのない過疎の波にのり、住民生活環境を維持することすら困難になっています。

# 村総合振興に伴う 調査報告会開催

開催します

高度経済成長  
支えて、若年労  
業集中化で、農林  
とするへき地山  
ようのない過疎  
住民生活環境  
ことすら困難に  
食糧不足、エネ  
と共に世界的に  
きている水不  
は、九州最大の  
上流域水源地に  
の村は、このよ  
同時に、この機  
かして村の長期  
的な振興を推  
進しなければ  
ならないと思  
います。

とはいって  
も、振興策は  
簡単に方向は  
出ず、現状を  
調査、未来の

中津江村としては、東京  
大学教授の高橋裕先生を班  
長とする山村振興調査会に  
その調査を委託し、調査、  
報告の指針とするため、一  
た。

第三回製茶品評会が六月  
十五日、中津江村茶業協会  
の主催でおこなわれました  
今年の茶の生産量は、平  
年作の約十五%程度の減収  
とみられます。昨年末から  
今年の一~二月におそつた  
異常寒波による茶樹の寒害  
は、全面積に被害をおよぼ  
し、五十%の減収が予想さ  
れ、当時の被害額で一千八  
百万円の推計でした。しか  
し、立春後の気候の良好と  
よつて、予想以上に回復し  
適採期には、予想をうわま  
わる収量となりました。と  
くに、今年は初めて“かぶ  
せ茶”が試作されましたが  
生葉の品質はもちろん、製

## 第三回製茶品評会

## 第三回製茶品評会

部の部落、地域では座談会など開いていただき、住民の皆さんのご意見を伺つてきましたところですが、先生方の調査を四月までに終り、報告書もまとまつたので、七月二十二日、全村民を対象に報告会を催すことになつた。

「これからの中津江村をどのように振興するか」について、方向が出されるものと思いますので、皆さんの方の多数のご参加をお願いします。



# お茶のはなし 生産物シリーズ、その5

中津江村の特産物シリーズをゆず、こんにゃく、しいたけ、ワサビとそれぞれ四つあげてきましたが、最後の特産、お茶のはなしをこのシリーズの終りにしま

日田、玖珠、大山、小国方面から多数の茶摘み人夫（主として女性）が集団で入り、津江の山は茶摘み景気でにぎやかで、茶山節の文句のように「津江は茶どころ」と、若い男女

で根強く取り引きされていました。また、村内の一業者によつて、沖縄、台湾に輸出されていた記録が残つています。この頃、静岡の国立茶業試験場から、落合、八木の両技術員が中津江村に茶の指導員として派遣されていましたことを覚えておられる方もいるのではないでしようか。落合技術員は後に静岡国立茶業試験場長になつています。

昭和三十五年に

製茶機械導入

戦争末期から戦後にかけての茶業は現状維持を保ながらも、木材の好景気にあおられ、山茶畑は一部杉に植えかえられる傾向になり生産量はしだいに低下し

戦争末期から戦後にかけての茶業は現状維持を保ちながらも、木材の好景気にあおられ、山茶畑は一部杉に植えかえられる傾向になり生産量はしだいに低下しつつありました。昭和三十年をピークに、再び津江茶の生産意識がたかまり、昭和三十五年新農村事業計画による製茶機械の導入、さらに昭和四十五年からはじまつた茶主産地形成事業を機会に、村の茶業は基本

うになりました。販売も仲買人の庭先販売から農協による生葉販売、または、製品の委託販売に変り、美しい化粧袋や缶詰にして販売されるようになりました。

津江茶の特色は、香氣と水色です。香氣は天然の立地条件の恵みにあり、味は肥料でできる。津江茶を香り高いおいしいお茶として銘柄をえるためには、恵まれた自然の条件に加えて、肥料を十分ほどこすことでしょう。

(産業課)

# 飲酒運転はやめて!!

レジヤー や お盆 の 時  
期 に な る と、 飲 酒 の 機  
会 が 多 く な り ま す。



丸  
永瀬  
小六年  
美保



つ  
み  
り

わたしの家族は、父、母、祖母、わたし、妹、弟の六人家族。わたしの父は、日田の会社につとめて、夜帰つ

てきたら顔も服もまつ黒です。父の会社は、日曜も休まないので、日曜の朝起きても父は家にいません。そんな父がつくづくかわいそうに思います。

母は、主に家の仕事をします。母が時々日田にいくときなどは、わたしが家の仕事をします。終つたら、ホツとして「母は、いつもこんなにつかれるんだな」と思います。母には、いろんなことをしてもらっています。今まで以上にがんばつて

祖母は、主に畠仕事で母といつしょにまめなどをつくっています。祖母は、夕方くらくなるまで仕事をしています。わたしは、もう少しはやくやめればいいのになあ……

わたしと妹、弟は、いつも母や祖母におこられっぱなしです。どうかすれば、わたしがいつもおこられます。

わたしはもう妹や弟あいてには、けんかをしないように心がけています。

## メジロ等の捕獲・飼育は許可が必要です

近年、野生鳥獣の減少によって、その保護繁殖が強く叫ばれています。その中でメジロ、ウグイス等の小型鳥類は簡単に捕獲され、姿、鳴き声が美しいために乱獲され、非常に少なくなっています。このため次のように野生鳥獣を捕獲、飼養する場合「鳥獣保護法」によって知事の許可が必要です。

○飼うことのできる鳥類及び期間……  
メジロ、ウグイス、ヒバリ、ホオジロ、ウソ、ヤマガラ、マヒワで、期間は1年で更新できます

○捕獲できる月及び場所……7月1日から2月末日までの1ヶ月以内で場所は一般獵野

○捕獲方法……とりもち、おとりかご、手取り

○飼養羽数及び手数料……同一世帯3羽以内で、1羽につき400円の手数料が必要です。

○捕獲者制限……20才以上の健全な男女

○手続先……大分県日田事務所林業課（電話 日田③2205番）

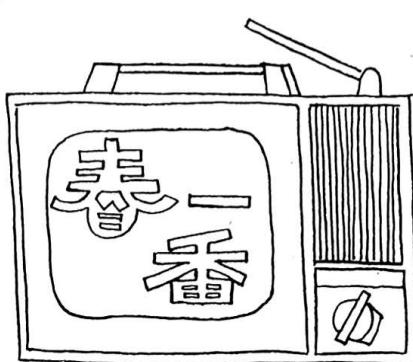
## 何よりも予防＝日射病＝

梅雨あけとともに急に暑くなると毎年のようにみられるのが日射病。強い直射日光の下で、しかもむし暑い日に作業したり、運動したりすると、体の中に高熱がこもって『うつ熱』の状態になります。暑さに慣れていなくて、疲労していたり、体に水分と塩分が不足していたりするときにかかりやすいほか、頭や頸部にあたる直射日光も関係します。

真夏の運動、作業には、朝食は必ずとつから、また、塩分を排泄する働きのある甘味飲料をあまり飲まないこと、それに適度の休養と帽子をかぶる習慣などを忘れないでください。

テレビをつけたまま眠っているとき、おしゃべりをしているとき、おしゃべりをしているとき、おしゃべりをしていているときなど、テレビがつけっぱなしになつていることはあります。手まめにスイッチを切りましょう。また、スイッチを入れると画面がすぐに飛びだす瞬間受像式のテレビは、いつもブラウン管を予熱するため四～六ドットくらいの電気を消費しています。おやすみの時、外出

や旅行で長い間テレビを見ない場合は、コンセントからプラグ（差し込み）を抜くようにしましょう。



電気ワンポイント  
“テ  
レ  
ビ”

# 8月18日に 愛の献血を!!

血液は科学の進歩した今日においても、なお人工的に作り出すことはできません。従って、輸血に必要な血液は健康な人の献血に頼らなければならぬわけです。今では我国の保存血液は、そのすべてが善意による献血でまかなわれていますが、医療需要の面からみると、必ずしも十分とはいえないません。また、その有効期間が採血後4日目から21日までと非常に短く、毎年7月から8月にかけ、血液は不足しています。

献血は、人の命を救うと同時に、家族の誰かが献血しておけば、全国どこにいる家族や親族にも優先的に血液をうけることができます。健康な方であれば身体に影響はなく、不安もありません。万一にそなえて1世帯1人は必ず献血したいものです。

中津江村では、8月18日(木)、役場で午前9時から午後2時まで献血を予定しています。みなさんのご理解とご協力をお願いします。

また、この早朝ソフトボーラー大会も、この時期には何となくというムードがあり、せっかく参加し、楽しめるものとするならば、この大会の意義、どうしてやるんだということを、もう一度考へる時期にきています。

## 村県民税(51年度) 徴収率 100%

昭和51年度の出納閉鎖は、5月31日をもっておこなわれましたが、毎年のことながら税の徴収状況が気がかりになります。というのは徴収率が低いと他の事業に関連する補助金や起債に影響をうけることになるからです。ひと昔には、かなりの滞納があり、徴収のため個々の家庭をまわっていました。しかし、現在では、税に対するみな様方のご理解によりこういったことはなくなりました。むしろ、徴収率も年々高くなっています。したがって滞納も少くなっていますし、もう一步で完全になくなっていますので、なおいっそうのご協力をお願いいたします。また、日田玖珠各町村の徴収状況をみても、やはり近年徴収率は高くなっています。

さて、本村の51年度の各種税の徴収状況は、昨年を上まわって、平均99.4%と高い徴収率を示しています。とくにこの中で村県民税の現年課税分については、初めて100%を記録しました。このことは特記すべきことであり、前にものべましたとおり、税についてのみな様方の深いご理解とご協力のたまものだと感謝いたします。

村県民税または固定資産税、国民健康保険税等、年間を通じて納めていただく税はかなりの額となります。52年度についてもご協力をお願いするとともに、この納められた税がみな様方のプラスとなるよう行政の面でお返ししていくことだと思います。

ソフトボール……かつては素足やズウリ、また作業着などでやっていたものが、今ではスパイク、ユニフォームなどをそろえるチームもあり、生活のにおいがなくなってきたことがあります。しかし、それが各自の盛り上がりでできたならば歓迎したいものです。

## 日赤募金 ありがとうございました

「赤十字」は災害救助及び社会活動をはじめ、世界を通じて救護活動をおこない、全人類の命を守り人道的活動を使命としていることはご承知のとおりです。

昭和52年度日赤募金について、先般より村民皆様のはばひろいご理解とご協力を頂き、寄せられました金額は、一般募金で、17万2千円に達しました。

また、鯛生の田島美砂さんが10万円、辛味の岩本久光さんが1万円、それぞれ特別にご協力頂き、募金総額は28万2千円と多額なものになりました。

紙上を借りて、厚くお礼を申し上げます。

## 第46回珠算検定 試験合格者

- 3級…矢野由希子、津江富士美、水野悦子
- 4級…石川美穂
- 5級…猪野日文、立花チエ子
- 6級…永瀬美津、高原里美
- 7級…川津基史、橋本正一、川村りか、梶原孝美、杉野幸則、宮部丈二、川野由美、水野良江、永瀬ハルミ、山本正子、栗原里津子

※次回の珠算検定試験は、11月13日の予定です。

六月二十七日から八月末までのおよそ二ヶ月間、今までの早朝ソフトボール大会がおこなわれます。参加チームは九チームで、今回で四回目、ソフトボールは村技として定着しつつあります。

## 雑記